

平成 27 年 度
入 学 試 験 問 題

国 語

(第 1 限)

注 意

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないで下さい。
- 2 本冊子は第一問題から第五問題まであり、7ページまでです。ページがなかったり、印刷が不明瞭な箇所があった場合は申し出て下さい。
- 3 解答用紙は、この冊子に折り込んであります。指定された欄に、受験番号、氏名を忘れずに記入して下さい。
- 4 放送による問題は、1ページの【第一問題】です。試験の最初に実施します。
- 5 解答は、解答用紙の指定された箇所に記入して下さい。また、解答に句読点が必要な場合は、その句読点も一字とします。
- 6 試験終了の合図があったら鉛筆を置き、監督員の指示にしたがって下さい。
- 7 この問題冊子は、各自持ち帰って下さい。

松 江 西 高 等 学 校

メ
モ

【第一問題】

放送による問題

中野さんたちの中学校では、それぞれの班で決めたテーマに基づいて、地域の人にインタビューすることになりました。

これから、獣医師として働く小田さんにインタビューをした部分を放送します。聞きながら、メモを取ってもかまいません。そのあと、**問一**～**問三**に答えなさい。

なお、放送はすべて一回だけです。

問一 中野さんが小田さんにインタビューをしに来たのは、何について調べるためですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 動物病院の獣医の仕事。
- イ ペットの保護活動のボランティア。
- ウ 地域で行われているボランティア活動。
- エ 地域に捨てられるペットの数。

問二 小田さんはどのようにしてペットの新しい飼い主を探していますか、書きなさい。

問三 飼い主がペットを捨てないようにするために、小田さんはどのようなことをしようと考えていますか、書きなさい。

【第二問題】次の文章を読んで、下の問一～問七に答えなさい。

人間という動物は（あるいは他の動物すべてに共通することだが）、そもそもそれほど強く自由を求めている存在なのである。

ペットを飼えばわかるけれど、彼らは飼い主に忠実であることが好きだ。人間にもこの傾向は強い。つまり、支配される①ことが心地良い状態だと感じる本能を持っている。

支配されていれば、なんらかの恩恵を受けることができる、という思想も極めて根強い。殿様に忠誠を尽くせば取り立ててもらえる。ペットが飼い主に尻尾を振るのと同じである。

支配の傘下に入ることは、余計な心配から逃れられる手取り早い方法なのだ。保険に加入するように、安心が得られる（もう少し客観的にいえば「安心」という錯覚が得られる）。今でも、この感覚は人間の根幹にある挙動だと考えられる。

人間が「支配」を受け入れる本能的な傾向を持っていることは事実であるけれど、一方では、それを嫌う性質、1「自由」を志向する感覚を持ち合わせているのも、人間という生きものの大きな特徴といえる。ほかの動物と比べれば、これは歴然としているだろう。

あらゆる動物の中で、人間が一番自由を求める。もう少しいえば、自由を求めるだけの思考力を持っていた、といえる。したがって、極論すれば、支配は動物的であり自然であるが、自由は人間的であり人工である、といえる。

科学というのは、自然（あるいは神）の支配から人間を解放するものだった。科学技術は、数々の自由を人間にもたらした。あらゆるテクノロジーは、人間をより自由にするためのものである。

昔に比べて、今の世の中は豊かになった。鞭で打たれて強制労働を強いられるようなことも既にほとんどなくなった。何故か？ それは、機械が働いているからだ。機械が生産することで、社会はトータルとして豊かになり、沢山の人間が自由になれた（もちろん、まだ偏りはあるが）。この豊かさが、人口の爆発的な増加を許したのは、少々やっかいな問題であるけれど、いずれは人間の知恵が解決するだろう、と僕は楽観している。なにしろ、人間の知恵以外に、人間が頼れるものはないのだから。

こういったテクノロジーの話をするとき、きまって一部に眉を顰める人たちがいる。科学は発展しすぎた、もっと自然に還らなければならない、都会を離れ、田舎に戻ってみんなで農業をしよう、自然の恵みによってこそ人間は生きられるのだ、というような主張である。

僕も、これを否定するものではない。そういう生き方は、個人的には認められるべきだ。僕自身、田舎の方が好きだし、今の日本は農業を蔑ろにしていると感じている。ただ、社会

問一 傍線部①～③について、次の1、2に答えなさい。

1 傍線部②の「配」を楷書で書く場合、三画目に書くのはどの部分か。「配」の三画目だけを濃くなぞって書きなさい。

配

2 傍線部④⑤⑥のカタカナの部分で、それぞれ漢字で書きなさい。ただし、漢字は楷書でいいいに書くこと。

問二 文章中の1・2に入れる語の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ア | 1 | しかし | 2 | そして |
| イ | 1 | たとえば | 2 | ところが |
| ウ | 1 | むしろ | 2 | なぜなら |
| エ | 1 | つまり | 2 | まして |

問三 傍線部①に「心地良い状態だと感じる本能を持っている」とあるが、筆者は、人間が支配されることを心地良いと感じるのはどうしてだと述べているか。十字以上、二十字以内で答えなさい。

全体がそちらの方向へ進むことはありえないだろう。

そもそも農業というものが既に自然のイトナみではない。極めて人工的な行為だ。田畑で獲れる作物とは、ようするに「養殖」された植物である。自然とはほど遠い人工的な環境によって大量生産され、また品種改良された製品なのだ。

これを成し遂げたのは科学である。農業はテクノロジイの上に成り立っている代表的な行為だ。林業もそうだし、水産業だって、海岸で銚もりを使って魚を捕っていた原始的なリョウに比べれば、現在のやり方は工業に限りなく近いものになっている。

「人工」や「科学技術」を捨てて、過去へ戻ることはできないし、**2**現在の人口を支えることはまったく不可能なのだ。

王様だけが自由だった古代に比べて、今は大勢の人が自由になれた。現在ほど「自由人」の数が多き時代はなかった。これは、神がもたらしたものではない(むしろ神はシヨウガイの一つだった)。人間の知恵がなしたものだ。

みんなを支配から解放したのは、人間がキズいた秩序であり、それを支えるのは、科学技術という知恵なのである。

できないものだと諦めていたものを、人類はつぎつぎに実現した。超能力といえるような特殊な力が、今は誰にも自在に扱える。遠くの人と話をしたり、何千キロも離れた海に向かうまで、いつでも訪ねることができる。世界中の映像を瞬時に見ることができる。人間の躰の中までも透視することができる。どんな動物よりも速く走り、高く飛ぶことができる。気の遠くなるような昔のことを確かめられるし、将来の**3**も可能になりつつある。結局、すべて人間が考え、工夫をし、着実に手に入れてきた自由なのだ。

こういうふうになると、「昔は良かった」「自然に還ろう」という発想は、どうも短絡的に感じられる。「不自由」や「支配」への回帰だといわれたら、どう反論するのか？ 昔のことに対しては、懐かしい「安心感」があることは、本能的に誰もが感じるところだけれど、しかし、人類は動物の本能から解放され、「自由を目指そう」という選択を何千年、何万年もまえにした種なのではないだろうか。

(森博嗣『自由をつくる 自在に生きる』による。一部省略)

問四 傍線部②に「自由は人間的であり人工である」とあるが、なぜそういえるのか。三十五字以上、四十五字以内で答えなさい。

問五 傍線部③の「そちらの方向」とは、どのようなことか。それが述べられている一文の初めの五字を抜き出して答えなさい。

問六 文章中の**3**に入る言葉を、漢字二字で答えなさい。

問七 傍線部④に「昔は良かった」「自然に還ろう」という発想は、どうも短絡的に感じられる」とあるが、筆者がそう述べるのはどうか。次の空欄に当てはまる言葉を、四十以上、五十以内で答えなさい。

昔と今とを比べて、
（四十以上、五十以内）
という事実を踏まえていないから。

【第三問題】次の文章を読んで、下の問一～問七に答えなさい。

「私」(ナズナ)、辻エリ、桑原サトル、向井ケイスケ、三田村リクは、柏木先生が顧問を務める合唱部の部長である。風邪を長引かせ、欠席している部長のエリに「私」が電話をしたところ、エリの声は相撲取りのようにかかっていた。「私」はエリがいない間、部長の仕事を引き受けることにした。

ある日の昼休み、私は先生のところを訪ねて放課後の課題を聞いた。つまり練習の方針である。その際、先生がデスクの引き出しを開けたのだが、なかにはファンシーなグッズがたくさんつまっていた。しかしそのことはどうでもよくて、先生は引き出しから課題曲『手紙』の楽譜のコピーを取り出して私に差し出したのである。

楽譜のどこどころに「霧の中をあるくように濁った声を」とか「口の中をひろげて響きを逃がせ!」とか「自分のなかで祈りながら歌え」などと大量に書きこんであった。辻エリの文字だ。

「部長のお見舞いに行ってきた、ついでに楽譜をコピーさせてもらったんだ。あいつ、大量のメモ書きをした。これを参考にしながら当面はやっていこう」

さらに、自由曲の作詞の件で話をされる。全員に課した作詞の宿題は、半数以上が未提出だという。

「提出されたなかから、使えそうなフレーズを抜き出してただけど……。でも、ちょっとこれを見て欲しい」

ノートのページをやぶったものを柏木先生は見せてくれる。ちいさくて自信のなさそうな文字がならんでいた。消しゴムで何度も消されたような跡もある。男子の文字だろう。その汚さから推測した。一読して、私は先生を見る。柏木先生は机に頬杖をついて窓の外に目をむけていた。

② 「損した気分です。最初からこいつに歌詞ばたのめばよかった」

「ナズナが骨格をかながえて、桑原が肉付けしたって感じだな」

私は職員室を出て、桑原サトルをさがしてあるいた。彼が仕上げた歌詞を自由曲に採用するのだということ報告するためだ。しかし教室にも図書室にも彼はいない。外だろうか？ たまに男子がぼんやりしている校庭のソテツのところに行ってみる。すると、男子の集団が運動場の端っこを海の方角にむかっているのが見えた。合唱部の男子部員たちだ。彼らにすこし遅れて、ひとときわ背丈の低い桑原サトルの姿があった。いつものようにうつむいてあるいている。

問一 傍線部②③④の漢字の読みを、それぞれひらがなで書きなさい。

問二 傍線部①の「いけすかない」について、次の1、2に答えなさい。

1 「いけすかない」の意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 感じが悪く気に入らない
- イ 熱意がある
- ウ 周囲の人となじめない
- エ わがままで意地悪な

2 「いけすかない」と同じ品詞の単語を、傍線部ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

問三 傍線部②の「耳をすます」と同じ意味の慣用句を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 耳を貸す
- イ 耳を疑う
- ウ 耳をそばだてる
- エ 耳をそろえる

問四 傍線部①に「練習の方針」とあるが、どんな方針になったか。次の空欄に当てはまる言葉を、十字以上、十五字以内で答えなさい。

部長の _____ (十字以上、十五字以内) _____ 練習するということ方針。

もしや、と私はぴんとくる。彼は海辺に連れて行かれて、いじめられるのではないか。そのような連想をしたのは、彼らのなかでいつも桑原サトルだけが浮いていたからだ。ひとりだけ真面目に練習をしていたから、いけずかないやつだとおもわれたのではないか。事実を確認するため、私はこっそりと後をつけることにする。

うちの中学校は正面に石垣を持ち、裏側が海に面している。といっても砂浜のような気持ちのいい場所ではなく、ごつごつした岩場の海岸だった。運動場を抜けて、岩場におりる階段へと男子の集団が消える。

私は頭を低くして、彼らを見下ろせる場所まで移動した。向井ケイスケ、三田村リクが、岩場の縁に桑原サトルを立たせている。背後は海という場所に桑原サトルは追い詰められたような格好だ。二年生、一年生の男子の集団が桑原サトルを囲む。一人対六人の図だ。絶対的ピンチの状況である。

曇り空の下で、灰色の海がごうごうと音をたてていた。岩にうちつけられた波が、白い泡をちらす。私は次第にこわくなってくる。今すぐに飛びだして声をかけるべきなんじゃないか。しかし、彼らのおもいつめたような表情に、足がすくんでしまった。ポケットのなかに携帯電話が入っている。岩場の陰にひっこんで、私は携帯電話を操作し、柏木先生にたすけをもとめようとする。

そのとき、声が聞こえてきた。統率のとれた男子の声だ。私は手をとめて耳をすます。

「まーりーあー」
④ 聖母の名前だ。岩場から顔を出して確認する。

「まーりーあー」
手拍子でリズムがとられ、様々な音階で聖母の名前はくりかえされる。
④ 自分がおもいちがいをしていたことに気づいた。

「まーりーあー」
「もしもし？ なん？」
辻エリに電話をかける。

彼女の声は相撲取りらしさを弱めてだいたい普段通りにもどっていた。
「エリ、これ、聞こえる？」

私は岩場から腕をつきだして、携帯電話を彼らのいる下のほうにむかって差し出した。
「まーりーあー」

聖母の名前は、海風にのってひろがった。

男子部員の集団は発声練習をしていたのだ。

(中田永一『くちびるに歌を』による)

問五 傍線部②に「損した気分です。最初からこいつに歌詞ばたのためはよかった」とあるが、「私」のどのような気持ちが読み取れるか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詞が決まらずに悩んだことは無駄になったが、自分ではなく、サトルの詞が採用されて心からほっとしている。

イ 苦労して作詞したことは無駄になったが、サトルの詞のすばらしさを認めている。

ウ 作詞にかけた時間が無駄になってしまったので、はじめからサトルに頼まなかったことをひどく後悔している。

エ せっかく作った詞が無駄になってしまったので、サトルのことをうらんでいる。

問六 傍線部③に「絶対的ピンチの状況」とあるが、具体的にどんな状況を指しているか。次の形式に合うように、二十五字以上、三十五字以内で答えなさい。

() 状況。

問七 傍線部④に「自分がおもいちがいをしていたことに気づいた」とあるが、「私」はどのようなおもいちがいをしていたか。四十五字以上、五十五字以内で答えなさい。

【第四問題】次の文章を読んで、下の問一～問五に答えなさい。

ある山寺に、徳たかく聞こゆる聖ありけり。年ごろ、堂を建て、仏つくり、さまざま功德をいとなみ、たふとく行ひけるが、終はりめでたくてありければ、弟子もあたりの人も、疑ひなき往生人と信じて過ぎける程に、

立派に仏道修行をした

ある人にかの聖の霊つきて、心得ぬさまの事どもいふ。聞けば、はや天狗

わけのわからない

なんともはや

になりたりけり。弟子ども、思ひの外なるこちして、いみじく口惜しく

思へども、力無くおぼつかなき事など問ひければ、不思議の事どもいふ中

仕方なく不審な点

に、「我が在世の間、ふかく名間に住して、なき徳を称じて人をたぶるか

みやうもん
名譽や名声にこだわって

あるとみせかけて

だまして

して作りし仏なれば、かかる身となりて後は、この寺を人の拝みたふとぶ

日に、我が苦患まさるなり」とこそいひけれ。

いみじき功德をつくるとも、心とのはずは、かひなかるべし。

(『発心集』による)

(注) 聖：徳のたかい僧。

功德：善い行い。

往生人：死後に極楽浄土に行くことができた人。

苦患：死後に地獄に堕ちた者が受ける苦しみ。

問一 傍線部①の「たふとく」を現代仮名づかいに改めなさい。

問二 傍線部②の「終はりめでたくて」とは、ここではどのような意味か。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 修行を終えた様子が見事で
- イ 修行が終わったことをお祝いして
- ウ 亡くなる時の様子が立派で
- エ 亡くなったことがうれしくて

問三 傍線部③に「思ひの外なるこちして」とあるが、弟子たちが意外に思ったのはどんなことか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 徳のたかい聖が長生きできなかったこと。
- イ ある人がわけのわからないことを言ったこと。
- ウ 功德をつんだ聖に霊がとりついたこと。
- エ 往生したと信じていた聖が天狗になっていたこと。

問四 傍線部④の「問ひければ」の主語にあたる人物を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 聖
- イ ある人
- ウ 天狗
- エ 弟子ども

問五 傍線部⑤に「この寺を人の拝みたふとぶ日に、我が苦患まさるなり」とあるが、聖の寺を拝む人がいると、聖の苦しみが増すのはどうしてか。次の形式に合うように、二十字以上、二十五字以内の現代語で答えなさい。

聖の寺にある仏は、()

()から。

【第五問題】

下の資料は、文部科学省が小学生に行った国語の学力テストと読書に関する調査をもとに作成したものです。

資料1と資料2を読んで、次の①～③の条件に従って、あなたの考えを書きなさい。

① 読書と国語のテストの点数の関係について、資料1と資料2から読み取ったことを書くこと。

② ①で読み取ったことの原因をあなたはどうか考えるか、自分の考えを書くこと。

③ 百二十字以上、百五十字以内でまとめること。
句読点や記号も一字として数える。ただし、一マス目から書き始め、段落は設けないこと。

※数字は算用数字を用いてもよい。

(例) 資料 1

※読み返して文章の一部を直したいときは、二本線で消したり、余白に書き加えたりしてもよい。

資料1

読書の好き嫌いとは国語のテストの点数との関係

	平均点
好き	67.0
どちらかといえば、好き	61.3
どちらかといえば、好きではない	59.0
好きではない	54.8

資料2

一か月に読む本の冊数と国語のテストの点数との関係

※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く

	平均点
0冊	55.1
1冊～2冊	60.8
3冊～4冊	64.0
5冊～10冊	66.2
11冊以上	67.9

(平成25年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)による)